

12月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調だが、量的に昨年よりも少ない。鹿沼・日光地区は順調な入荷であるが、県北地区は少な目である。スギ、ヒノキともに引き合いがあり荷動きも良い。特にヒノキは不足感が目立ち、3、4mとも強い引き合いが続いている。スギの3、4mは小幅安に転じたが、ヒノキは強保合で推移している。

群馬でも出材が増え、原木不足は解消した。製材工場の原木在庫も例年並みまで回復している。原木価格も下落傾向に転じた。工場の操業は8割程度を維持、受注は例年並みだが細かい注文が多い。製品市場からの引き合いも多く、生産が追い付かない状況にある。製品在庫が少ないため、羽柄材・構造材の増産を予定している。米マツ製品の品不足の影響か、割物類、仮筋交、筋交類が不足している。製品価格は低位安定だが、米マツの代替製品は品薄により値上がり感がある。スギ柱角、ヒノキ土台角も値戻しを始めた。

2. 米材

カナダ私有林最大手のMOSAIC社の伐採は依然本格稼働には至っていない。米国では堅調な製材品需要を背景に製材工場の原木集荷は活発である。一方、森林火災による被害材のサルベージ伐採が本格化しており、出材量自体は潤沢な模様。米国、カナダの港頭在庫は低水準ながら出材が徐々に増えており、落ち着きを見せている。米マツIS級並の対日輸出価格(推定)は8月積みから4ヵ月連続で上昇したが、12月積みは\$960の横ばいになった。米国の製材品市況は9月最終週に反落したが、11月中旬から再び上昇局面になっている。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(11/25)は\$567/M。現地製材工場の製品在庫が少なく、日本向けオファーは少ない状況が続いている。対日向け価格も高値を維持。米国大手の製材工場が対日向け米マツ製材品を2021年1月より無期限停止を決定した。月間約140コンテナを供給しており、影響はかなり大きい。

10月原木入荷量は163千 m^3 、1~10月累計で1,547千 m^3 (前年同期比24.9%減)。カナダの前年同期比72%減に対し、米国は1.1%増。出荷量は142千 m^3 、1~10月累計で1,540千 m^3 (同24.6%減)。在庫量は減少し185千 m^3 、在庫率は1.26ヵ月。東京木材埠頭の11月入荷は14千 m^3 (前月比1.6%増)、

出荷は 15 千 m^3 (同 23.8%減)、在庫は 22 千 m^3 (同 3.4%減)。港頭在庫は低水準で推移。年明けも入荷の増加は見込めないだろう。

3. 南洋材

サラワク州では 11 月に降雨が小康状態になり、現地工場への原木供給は一段落した。輸出玉が逼迫している所にインドからの好調な引き合いとなった。このためインド向け FOB 価格は\$10~20/ m^3 上昇しており、インドはソロモンからの船積みを増やしている。PNG では中国向けが引き続き低調。12 月予想の原木入荷量 0、出荷量 4 千 m^3 、在庫量は 14 千 m^3 、製材品入荷量は 27 千 m^3 。製材用のクルイン、アガチスなどサラワク産の一部樹種は欠品状態にある。マレーシア、インドネシアからのコンテナが不足し、運賃も急上昇している。

4. 北洋材

シベリアでは主要シッパーへの冬伐り原木の入荷が始まったが、新型コロナの影響で製材生産量は増えていない。日本からの引き合いにも応じられず、対日向けアカマツ野縁製品の価格はかなり強含みである。アカマツ原板の 12、1、2 月積みの交渉が開始されたが、先行きの価格上昇を見通してシッパー側では値決めを遅らせる動きが出ている。中国向けは一带一路構想により運賃補助が出ている模様で、原木、製材品ともに好調である。今後、プーチン政権の原木輸出政策の影響が注目される。国内製材工場では低調だった DIY 向けに回復の兆しが見られ、また米マツ小割の代替の動きも見られる。現地挽きアカマツ野縁製品の上級グレードの流通在庫は全くなく、中間グレードも薄い。下級グレードのみ流通在庫が多い。12 月予想の原木入荷・出荷量とも 2 千 m^3 、在庫量は 10 千 m^3 。製品は入荷量(東京+川崎)14 千 m^3 、出荷量 18 千 m^3 、在庫量 37 千 m^3 。

5. 合板

合板用の国産材原木は春以降の伐採制限によりタイト感が出ており、価格は強含み。ロシア材は少量での取引が続いている。米材は価格横ばいで日本向けの新規オファーは少ない。南洋材は現地の悪天候など厳しい状況であるが、今のところ大きな問題はない。

10 月の国内合板生産量は 26.4 万 m^3 、うち針葉樹合板は 23.5 万 m^3 、出荷量は 26.9 万 m^3 で在庫量は 11.7 万 m^3 となり、うち構造用合板の在庫は 9.6 万 m^3 と 6 月以降減少が続いている。針葉樹合板は年末に向けて引き合いが強くなっており、納期に時間がかかり始めた。価格はやや強含みとなっており、先行きメーカー在庫が少ないため、値戻しが進むだろう。輸入合板は入荷が極

端に少なく、ほとんどの品目で不足感が出ている。とくにラワン構造用合板、塗装型枠合板の不足感が強い。価格も強い値戻しが進んでおり、先行きも強気姿勢で推移すると見られる。10月の合板輸入量は18万^mと少ない入荷が続いている。インドネシアでは日本向けが回復傾向にあるが、原木不足が続いており価格は上昇している。マレーシアでは悪天候が続いており、出材は低調である。受注は増えているが、新型コロナの影響で生産量の増加は厳しい状況にある。

6. 構造用集成材

11月のラミナ入荷は通常通りである。中国と米国間のコンテナ需要増により世界的にコンテナが不足している。これから第1・四半期交渉が始まるが、北米、中国、欧州内での需要が拡大している影響で値上げが予想される。また各国の引き合いが強いため、日本向けオフア量は少なくなっている。輸入集成材の入港量は夏場をピークに落ち着きつつある。第3・四半期交渉で契約量を絞っているため、国内主要港の在庫量は少ない。先行き構造用集成材、製材品とも年明けまでは入荷量は少なくなるだろう。

7. 木材チップ

チップ原木生産は徐々に動き始めたが、例年より入荷は低調。解体材入荷は新型コロナの影響による発生量の減少、大型バイオマス発電所の稼働等により冬場のタイト感が非常に強くなっている。製紙用チップの消費量は回復傾向にあるが、会社・工場毎にバラツキが見られる。燃料用チップは年末年始を控えて在庫を積み増しており、消費量は増加傾向にある。

8. 市売問屋

11月に入って新型コロナの第三波により荷動きは悪い。国産材、外材の値上げに対して材木店は仕事がないため、静観している。今年は当用買いの域を出なかったようだ。構造材は国産材、外材ともに量が動かず引き取りも遅い。スギ、ヒノキ造作材もの荷動きが悪い。

9. 小売

秋口から町場の工務店の受注が増えているが、職人不足による工期遅れ等で受注物件の納期が後ろ倒しになる現場も多く、不安定である。スギ柱角は川上で値上げの動きはあるが価格は保合。町場が動かないため価格を転嫁できていない。非住宅向けの造作材・羽柄材の荷動きが活発さを取り戻しつつある。買い控えていた販売店がようやく手当てに動き出した。市場でも欠品材が散見され、年末に向けて価格は強保合。今後、新型コロナの第三波の影響がどこまで出てくるのか懸念される。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和2年12月21日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	↘
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↗	↘
南洋材	丸太	↘	↘	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↗	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↘
			スギ中丸太(3.65m)2等	↘
			ヒノキ柱材(3m)2等	↗
			ヒノキ中丸太(4m)2等	↗
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↗
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16'' 13'	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	↗
			アカマツ(KD)16×40上級	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→